



『内住のみ霊に励まされて』

—第10回聖化大会に向かつて—

■日本福音連合教務理事・同湘南教会牧師

加藤 博 重

毎年教派教会をこえ、一同一堂に会し、「聖化」を中心に、祈り交わる楽しみを与えられ、誠に感謝です。

「聖化」が発刊、聖化交友会が発足以来、恵みが注がれ、昨年の大会も祝福され、会場が一杯で、講師らの力強い霊的な内容豊かな深いメッセージに、恵みを求め学び究めんと謙遜・熱心に集い讚美し祈る人々の上に、神のお働きと聖霊の聖業を見せられ、聖名を崇めて感謝しました。

今年第十回大会を迎える大切な節目です。一層の聖霊のお働き・リバイバルを主に求め、祈り備え、また、主をご期待申し上げています。

聖潔派教会で救われ召された私も、遣わされ四五年になります。顧みる時万事が神の恵みで、「聖化の恵み」を賜いし神を崇める者です。日毎新しく聖霊と聖書に導かれる時、(ガラテヤ二・一九—二〇、五・一六、二四、

二五、六・一四)の経験の結果、いつも「私を強く下さる方」によって何事でもする事ができる(ピリピ四・十三、十九)「私にとって生きる事はキリストであり、死ぬ事は益である」(ピリピ一・二十、二十一)「キリストに在りて」「キリストの為に」と。

聖言と聖霊に励まされ、生きて来ました。「私は有りて有る者」と仰せられる神は、み子の贖いと、降された聖霊のお働きにより、罪人の頭なる私の罪を凡て赦し、神との和解・義認に与らせ、聖化し、「今より私は主である」。「私は宿り、かつ歩む」「私が行えば誰が止める事ができよう」かと、ご内住の聖霊によって、今日ある事を得ています。臨在(マタイ二八・一五—二〇)の約束を下さった主、再臨し新天新地・天国に導いて下さる主が私の内に住み活動し、救

霊のご用に用いて下さるとは、「聖化交

友会」は、四重の福音の「聖化」の学びと体験・祈りと交わりのため、活動して参りました。聖化とは何か。何故聖化が必要か。何から聖化されねばならぬのか。どうしたら聖化に与れるのか。どうしたら聖化の恵みを保持し、継続成長して行けるのか。求め学び祈り、証し頌ち合えます。

私も毎年出席が許され、大きな祝福を頂いて来ましたが、年々増えていきます。神よ、第十回聖化大会を祝して下さい。多くの教会から、信徒役員教職をお送り下さい。個人、教会に聖霊の経験と満たしを与え、リバイバルを起し、同胞の救霊のためお祈り下さい。聖言を信ず。「どうか平和の神が、あなた方を全く潔めて下さるように。……召された方は真実であられるから、この事をして下さるであろう」。(第一テサロニケ五・一二、二四)。

三、二四)。

潔 の 聖 的 課 題 の 実 際 的

『成熟を目ざして進む』

▼イムマヌエル綜合伝道団

主都中央教会牧師

井川 正一郎

「ですから、私たち、キリスト
についての初歩の教えをあとにして
成熟を目ざして進むではありません
か。」（ヘブル6章1節）

主都中央教会は、主任牧師の葛田
眞實先生を頭に数名の牧師が奉仕し
ている。小生もその一員として特に
若い青年男女を対象とした「青年部」
の責任を担っているものである。

毎聖日、およそ40―50名ほどの青年
方を相手にしつつ、彼らの信仰の成
長のために労させて頂いている。多
くの若者たちにとって共通の課題は
いつの時代も次の三つのものがある
と思う。①受験、学校選択の問題、
②就職の問題、③結婚、また献身の
将来における問題。これは若人たち
の人生における三大課題である。こ
れらの問題に信仰的に適切に対応さ
せて頂かねばならないのである。

以上のような人生航路の中で必ず
直面せねばならない実際の課題と
もに、大きな問題としてとり上げる
必要のあるものは、言うまでもなく
彼らの靈的経験の確立ということ
である。靈的経験の確立というとき、
その中に含まれるものは、「救いがど
うなっているか」、「きよめはどうな
っているか」、そして「献身はどうな
っているか」の三点である。救い、
きよめ、献身を含めての人生の用い
方の問題は、避けることの出来ない
非常に大切な靈的課題である。小生
はこの青年部の責任の一端を担わせ
て頂いて十数年が経つが、若人たち
に対する取り組み方法として、五年

實際面を具体的に扱い（例えば、時
間の用い方、金銭の扱い方、対人関
係の問題等々）、四年目は「献身」
という面を扱いながら、人生の用い
方、（神の御旨の確かめ方も含め）
また神への奉仕ということとは具体的
にどういうことが意味されているか
を考え、最終の五年目には、「宣教」
「日常の伝道・あかし」の面を扱う
ようにしている。そして折々にこの
中に、密室（デイボーション）の持
ち方を、健全な意味においてである
が手取り足取りのようにして身につ
けて頂こうと実践的にとり組んでい
るものである。

以上は、言うまでもなく「靈的経験」
であり、特にきよめの確立にあると
いって言い過ぎではない。このきよ
めの問題に対する取り組みは、若人
に限らず、老若男女全ての者にとつ
て死力を尽くして勝ち取っていくべ
きものであると確信している。
まず何よりも「きよめ」の経験を
せねばならない。罪の問題が徹底的
に扱われ、その性質が一切取り除か
れる必要がある。と同時に神の愛に
全く満たされる経験に立つのである。
それとともに大切なことは、きよ
めの経験の後の歩みの問題である。
成長・継続面の重要さは、いくら強
調しても強調しすぎることはない。
特にそれが具体的な生活の中にどれ
だけ実践的・現実的な歩みとなつて
いるかが、大きな課題となる。これ
は若人に限らないことであると思
うが、与えられた24時間の具体的使用
方法、金銭に対する態度、使用方法
はては言葉づかい、服装の問題に至
るまで、信仰ということ、また靈的
経験ということがどれだけ日常のも
のとなり、証詞されているかが「き
よめ」の実現において不可欠なこ
とである。信仰生活ともいわれると
き、若人たちの信仰・靈的経験が頭
だけの知識にとどまらず、心と実践
に結びつくものとして成長・成熟し
てもらいたいと常に願っている。こ
のことがはっきりすれば、伝道や献
身の問題も明確になってくるであらう。

◆第10回聖化大会へのお招き◆

祝福されたホーリネス・ライフを求めて

第10回聖化大会実行委員長

チャーチ・オブ・ゴッド川崎南部教会牧師

伊藤 昭吉



第十回関東聖化大会に本紙読者の諸師、諸兄弟をお招きできることを嬉しく存じております。日本聖化交友会が一九八五年に発足して今年で十年の節目を迎えました。その間、ホーリネスの恵みを求める運動は日本の各地に広がり、今では北海道、仙台、栃木、関東、東海、大阪、九州の七ヶ所、日本聖化交友会の後援のもとで聖化大会、あるいはそれに類する大会が持たれております。

これまで関東聖化大会に快く会場を提供して下さっていた淀橋教会が、この度会堂を一新することになり、建築工事に入りました。そのため今年は今会場を他に求めなければなりません。感謝なことにも多くの方々のご好意による奔走とご努力により、社会文化会館をお借りすることができました。収容席数は七七八席あります。どんなに多くの方々がご出席されても大丈夫です。どうぞ数に気兼ねすることなく、多くの友人・知人を誘ってご出席してください。ようにお勧めいたします。

この度の大会のテーマは「ホーリネス：その信仰の把握・信仰の範囲（かた）を求めて」です。信仰生活が自己本位的で、恣意的に流れやすい傾向にある今日の風潮に対して、聖書は

明確に「伝えられた規準（規範）に心から服従し、聖潔に進みなさい。」(ローマ6・17・19)と教えています。祝福された信仰生活、すなわちホーリネス・ライフは無軌道ではなく、メソジカルな生き方にあると確信しているからです。

そこで主講師のウッド博士には「ウエスレー神学における聖霊の働き」と題してセミナーで二回に亘って講演をして頂きます。小林和夫博士には「ウエスレー神学における聖霊の位置」と題して講じて頂きます。期せずしてお二人の先生が取り扱うテーマは「ウエスレー神学」です。ウエスレーの膨大な業績の中から、現代のクリスチャンに対する豊かで生命にあふれるホーリネス・ライフの展開がなされるものと期待します。

回を重ねるごとに祝福されている女性大会では峯野龍弘師によって「家庭に聖化を」と題して話されます。ホーリネスが単なる空理空論ではなく、家庭という実践の場で宣証されてこそ本物といえます。

この度の聖化大会が各教会の祝福につながるようにと祈りながら、諸師、諸兄弟が昨年に勝る関心をもってご参集されるようにお祈りしてやみません。

主講師

プロフィール

ローレンス・ウッド博士



信仰の教理が、真剣に示されるべき今次大会の主講師に、組織神学、現代神学、特にウエスレーン神学を専攻され、諸大学で教鞭を執り、8年間の牧会経験も有されるローレンス・W・ウッド博士をお迎え致します。

アズベリー大学(B.A)同セミナー(B.D)クリスチャン神学大学院(Th.M) エンバラ大学(Ph.D)と十分な学びに備えられ、既に、ロビンズ・ウエスレアン大学、ホートン大学で哲学の教鞭をとられ、一九七六年以後現在まで、アズベリー神学セミナーにて、神学セミナーして活躍されていきます。

聖化の問題に就いての著作も二冊あり、ウエスレアン神学ジャーナルの現編集者で、各方面に論文や出版活動にも活躍され、今秋の大会までにE.P.A.により、著書の一つが訳出される予定です。最近、世界エキュメニカル会議でも、ベネディクト派とメソジスト伝承の聖化について論文を発表されました。

マリー夫人と二男二女の良き家庭の人でもあられます。期待してご来聴下さい。



新刊案内

ローレンス・ウッド博士 著

「ありのままに霊的に」

ウッド博士の著書が今大会を期して発行されます。牧師、神学生、信徒にとっての好著です。購読を心からお勧めします。

札幌聖化交友会

第七回札幌聖化大会は一九九五年五月二日(水)・三日(木)の両日、北海道クリスチャンセンターを会場に行なわれました。

今年は、講師にイムマヌエル綜合伝道団船橋教会牧師竿代忠一先生をお迎えして、三回の聖会と一回のセミナーを開催致しました。

竿代先生は聖会においては、聖化の恵みを第一ペテロ一章十三節〜二十節から

①「神の聖について」
②「人間の聖潔について」
③「聖い生活の実際について」

平易に、あたたかくお語り下さいました。

招きに応じて重みの座に出て折る人々の中に若い方々の姿が少なくなかったことが印象的でした。

またセミナーにおいては、「現代に語るウエスレー」と題してウエスレーを①理論の人、②体験の人、③実践の人、と三つの角度から紹介され、健全なキリスト教信仰のあり方について、また、今日「宗教とは何か」「宗教は何をなすうるか」との間に答えるべきことをお語り下さいました。

今大会の出席者は次のとおり。
(聖会Ⅰ)八十八名 (Ⅱ)七十八名 (Ⅲ)百十一名 (セミナー)二十九名

今年のこれからの活動計画としては九月〜十一月、聖化に關して私が出会ったこの一冊をテーマに、読書発表と懇談の集いを三回開催の予定。

以上、感謝してご報告致します。
(報告・高橋 養二)

関東聖化交友会栃木ブロック

第九回関東聖化交友会栃木ブロック聖化大会は三月五日、宇都宮市のコンセーレで開催され、講師には兄弟団理事長の工藤公敏師がお迎えしました。来会者は風邪があつたりして通常よりやや少ない九〇名ほど。

大会テーマを「キリストの再臨とホーリネス」とし、全てをご存知の神の御前に恐れなく立ちうる完全な愛を得、確信する必要を覚えつつ掲げました。

説教者はテサロニケ第一、五章一〜二四節より、きよめの道をご自分が求め、得、通つてこられた体験を交え、キリストを慕い、御前に立ちうる信仰を熱心にお語りいただきました。一同実に幸いな恵みを頂きました。

当会では通例、大会前後に委員会をもち、大会だけではなく、普段の自覚として、標準的な学びをしようとして願つております。キリスト者の完全」を終え、現在はトマス・クックの、「新約のきよめ」を、趣向を変えつつ、持ち回りで委員一人が一章ずつ読んできて内容と所感を発表することにしておりあります。秋の大会は十月二十九日に行ないます。感謝なことに講師に、ホーリネス委員長松木祐三師をお迎えする段取りとなつております。

現今世情を騒がせ、おどましい教えと実践をしていく罪祖と集団を見るにつけ、改めるの悔いと改め、キリスト信仰、聖書の薫陶と訓練、御霊の実を結ぶこと、虚言の無いこと、人間関係、金銭問題等に聖潔が最重要である事など反面的に教えられます。

発足後八年目を迎えた東海聖化交友会は、当地に、さらに豊かな主のみ業を拝すべく、今年から、年二回の大会の開催に踏み切りました。六月の東海聖会、十月の聖化セミナー・聖化大会です。

そこで、緊張・折り・期待をもつて、この六月の聖会に臨みまして、主講師としては、全国的に広く用いられている地元毛戸健二師、そして証人には、同じく地元で、久しく主に用いられた松原向師、毛戸麗子師がたてられました。この六月二四、二五日と土日にかけて行われた集いは、あらゆる面で、すばらしい祝福をいただきました。

主は、講師、証人を豊かに用いられた極めて靈潮の高い、恵みに溢れた聖会となりました。特に二日目の日曜の午後は、さしもの広い一麦教会も、ほぼ満堂となり、この地に、「きよめ」を求めめる神の子たちが、こんなにも多く備えられていたのかと改めて実感しました。久しい間、当地の靈的覚醒のため折つてこられた毛戸師も、また、多くの同労者たちも、この大いなるみものについて、深い感動を語っておられました。この地にも、主の大雨の注ぎのある前兆として受けとめ、前進したく願わされたことでした。

そして十月、関東、関西と連動して今回もセミナー・聖化大会が十九日(金)に行なわれます。聖書の学究的追究も怠らないように、また土・日では出にくい地域にも出席の可能性を考慮しての集いであります。

(報告・山田 隆)

東海聖化交友会

発足後八年目を迎えた東海聖化交友会は、当地に、さらに豊かな主のみ業を拝すべく、今年から、年二回の大会の開催に踏み切りました。六月の東海聖会、十月の聖化セミナー・聖化大会です。

そこで、緊張・折り・期待をもつて、この六月の聖会に臨みまして、主講師としては、全国的に広く用いられている地元毛戸健二師、そして証人には、同じく地元で、久しく主に用いられた松原向師、毛戸麗子師がたてられました。この六月二四、二五日と土日にかけて行われた集いは、あらゆる面で、すばらしい祝福をいただきました。

主は、講師、証人を豊かに用いられた極めて靈潮の高い、恵みに溢れた聖会となりました。特に二日目の日曜の午後は、さしもの広い一麦教会も、ほぼ満堂となり、この地に、「きよめ」を求めめる神の子たちが、こんなにも多く備えられていたのかと改めて実感しました。久しい間、当地の靈的覚醒のため折つてこられた毛戸師も、また、多くの同労者たちも、この大いなるみものについて、深い感動を語っておられました。この地にも、主の大雨の注ぎのある前兆として受けとめ、前進したく願わされたことでした。

そして十月、関東、関西と連動して今回もセミナー・聖化大会が十九日(金)に行なわれます。聖書の学究的追究も怠らないように、また土・日では出にくい地域にも出席の可能性を考慮しての集いであります。

(報告・竿代信和)

第8回東海聖化大会

- 日時 10月19日(木) 午後3時と7時
- 場所 イムマヌエル名古屋教会・福音センター
- 講師 ローレンス・ウッド博士
- テーマ 「あざやかなきよい生活を目指して」

第29回 ジョン・ウエスレーに学ぶ会 (大阪大会)

- 日時 10月20日(金)
- 場所 日本フリーメソジスト教団 大阪日本橋キリスト教会
- 講師 ローレンス・ウッド博士
- 内容 公開講座「聖霊とウエスレー神学」 聖会「聖化と実践」

第6回九州聖化大会

- 日時 11月15日(水)と16日(木)
- 場所 ナザレン熊本教会
- 講師 竿代忠一師、毛戸健二師

総務リポート

「聖化」第20号をお届けします。今秋、全国各地で行われる聖化大会の案内号です。全国各地に聖化の経験と宣証がたしかなものとしてされるべく、主の大いなる御業を期待するものです。

(編)